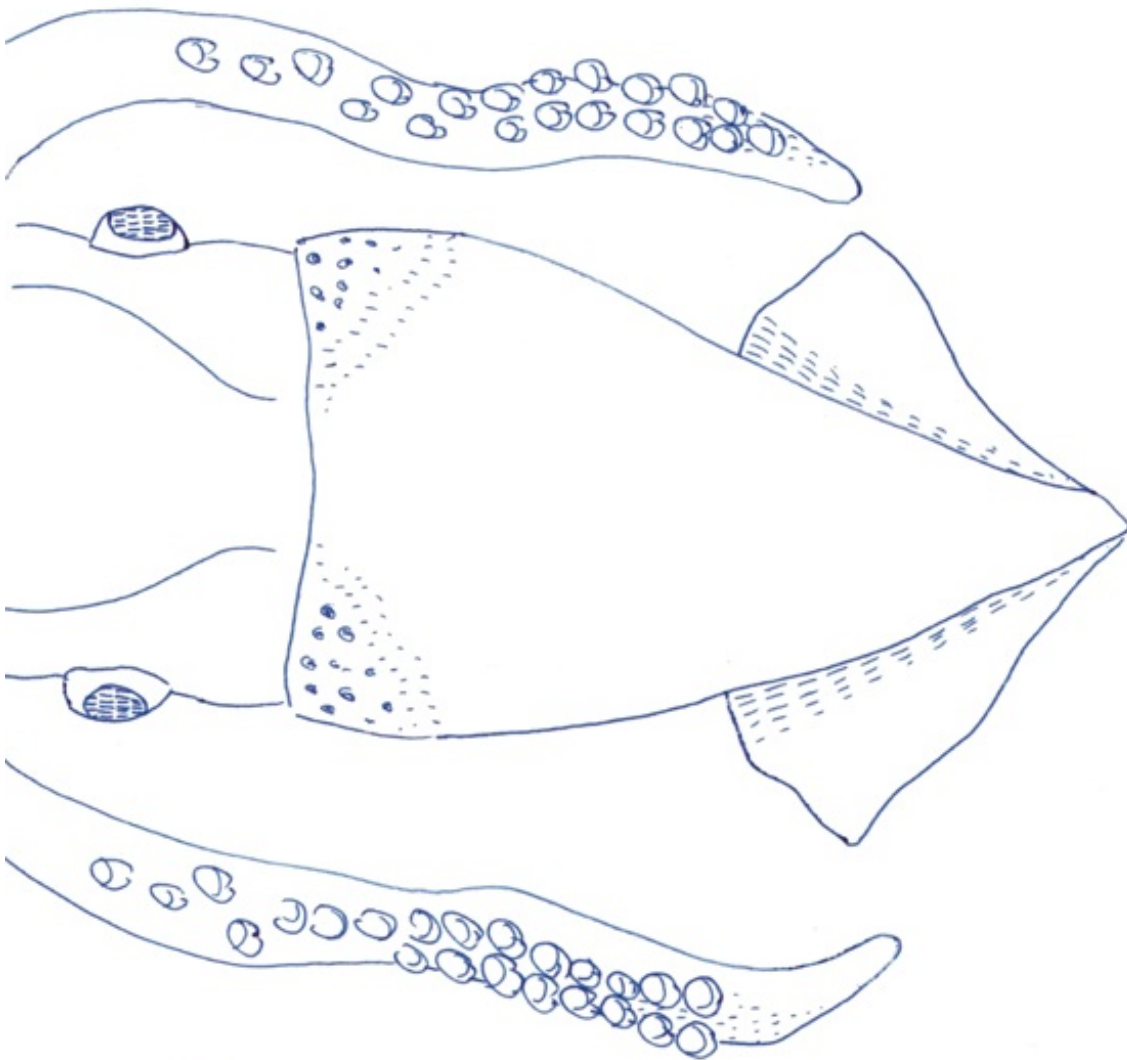




nichi-nichi



Summer

「日々(にち)」

早いもので「日々(にち)」は創刊一周年を迎えました。

想像力を大事にすることをモットーに、

読者の皆さまに有用な情報を発信するでもなく、


ただただ勝手に想像して参りました。

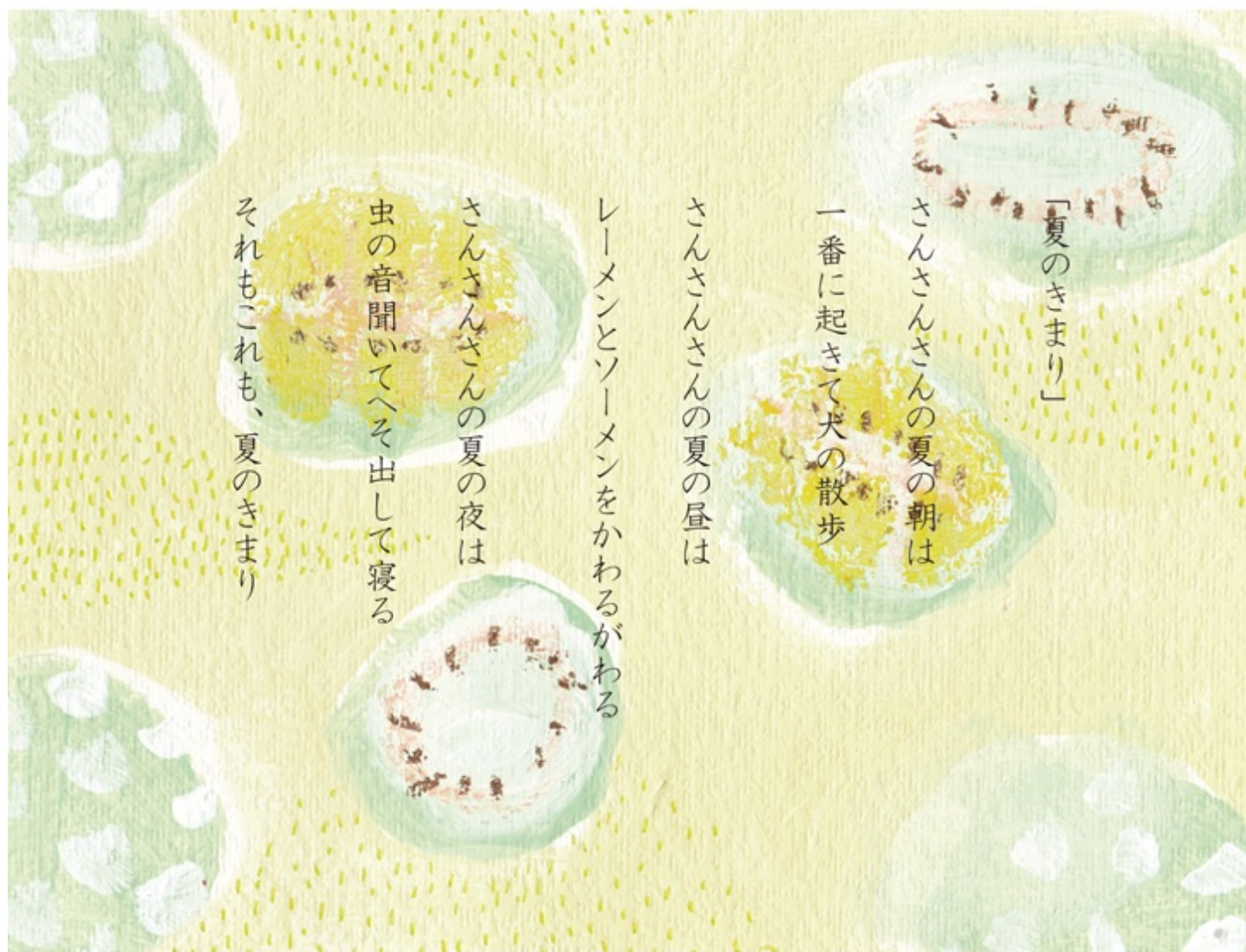
決して堂々と胸を張っていられる訳ではありませんが、

世の中にひとつくらいこんなのがあっても良いかな…。

そんなことで、これといった路線変更なく

「日々(にち)」は二回目の夏を迎えます！

 コタマ



名字のはなし

おもしろい名字、珍しい名字から思いついたことを自由にかきます



鴨脚と猪坂（いちょうといのさか）



世の中にはあちらとこちらがあります。

あちらとこちらの境目は不明瞭で、こちらで生活をしても知らず知らずのうちにあちらとすれ違ったり、迷い込んでしまったりします。反対に、あちらがこちらに迷い込んですっかり居付いてしまっていることもあります。京都にはところどころに井戸がありますが、その中のひとつにあちらとこちらを行ったり来たりできる井戸があるそうです。うんと昔に水が枯れて使われなくなつて、そのまま忘れられてしまった井戸です。

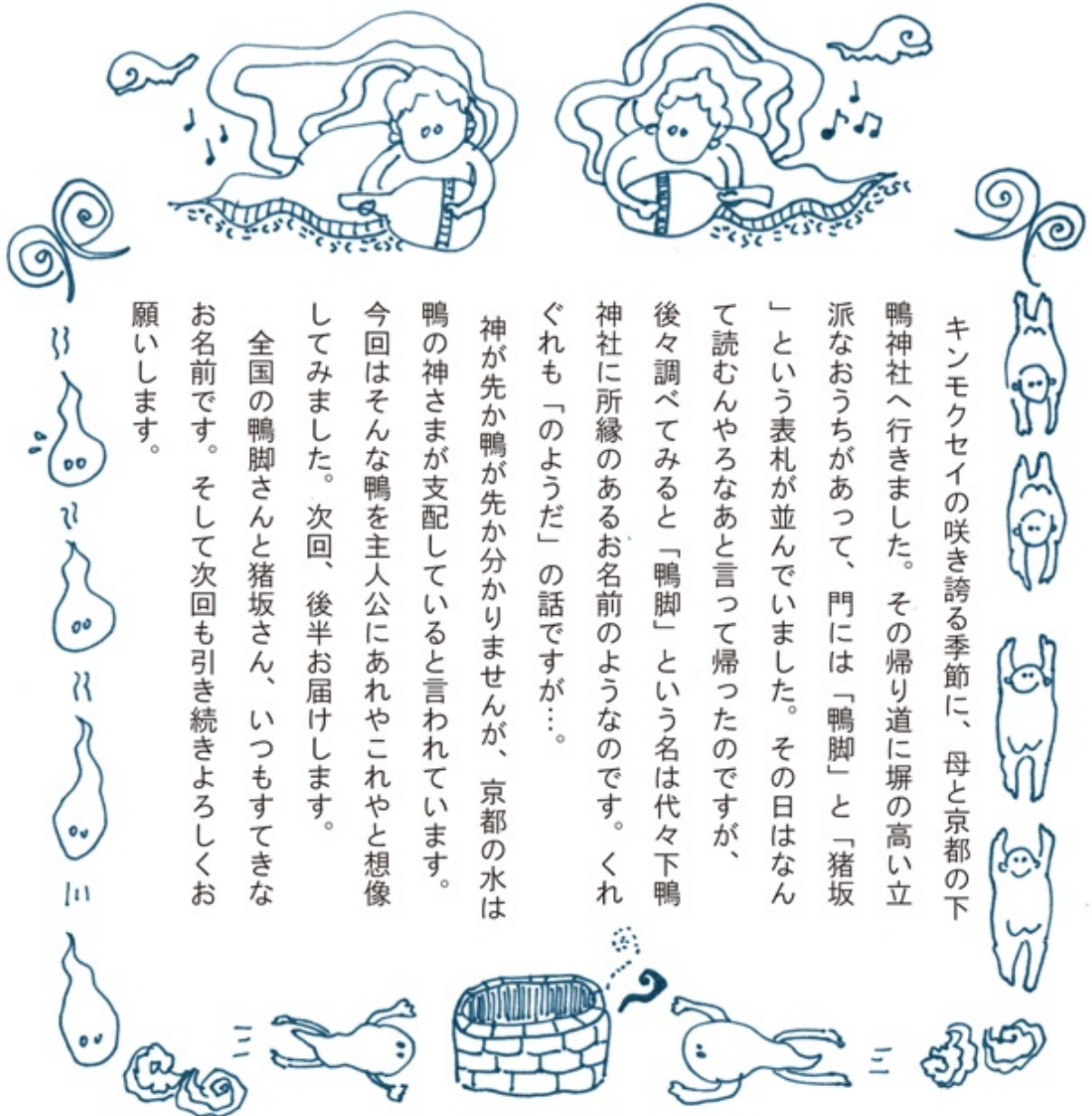
そんな井戸の中を一匹の鴨が、正確には一匹分の鴨の足がさまよい歩いていました。その鴨は餌を探している途中に水草が足に絡まって川の中に引きずり込まれ、溺れ死んでしまった鴨です。鴨の足は死んでしまったことが悔やみきれず、足だけが成仏できずにあちらの世界に残ってしまいました。鴨の足はあちらでうろろうろしていました。が、何せ足だけなので格好がつかず、肩身の狭い思いをしていました。

そんなところにあちらとこちらを結ぶ井戸の噂を聞いたのです。こちらの世界なら肩身の狭い思いをしなくても良いかもしれないと思って、こちらを目指して京都中の井戸を探し回り、そしてようやく噂の井戸を見つけたのでした。（つづく）



名字のはなし

のはなし



キンモクセイの咲き誇る季節に、母と京都の下鴨神社へ行きました。その帰り道に塀の高い立派なおうちがあつて、門には「鴨脚」と「猪坂」という表札が並んでいました。その日はなんて読むんやろなあと言つて帰つたのですが、後々調べてみると「鴨脚」という名は代々下鴨神社に所縁のあるお名前のようなのです。くれぐれも「のようだ」の話ですが…。

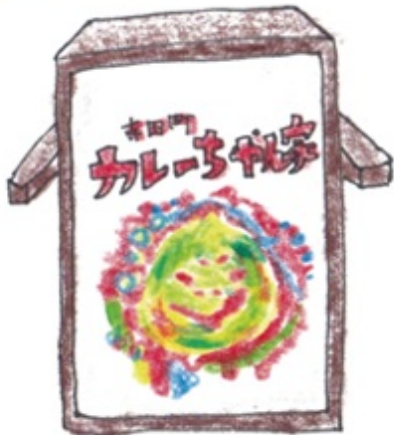
神が先か鴨が先か分かりませんが、京都の水は鴨の神さまが支配していると言われていました。今回はそんな鴨を主人公にあれやこれやと想像してみました。次回、後半お届けします。

全国の鴨脚さんと猪坂さん、いつもすてきな名前です。そして次回も引き続きよろしくお願ひします。

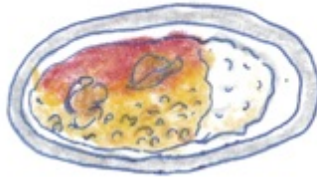
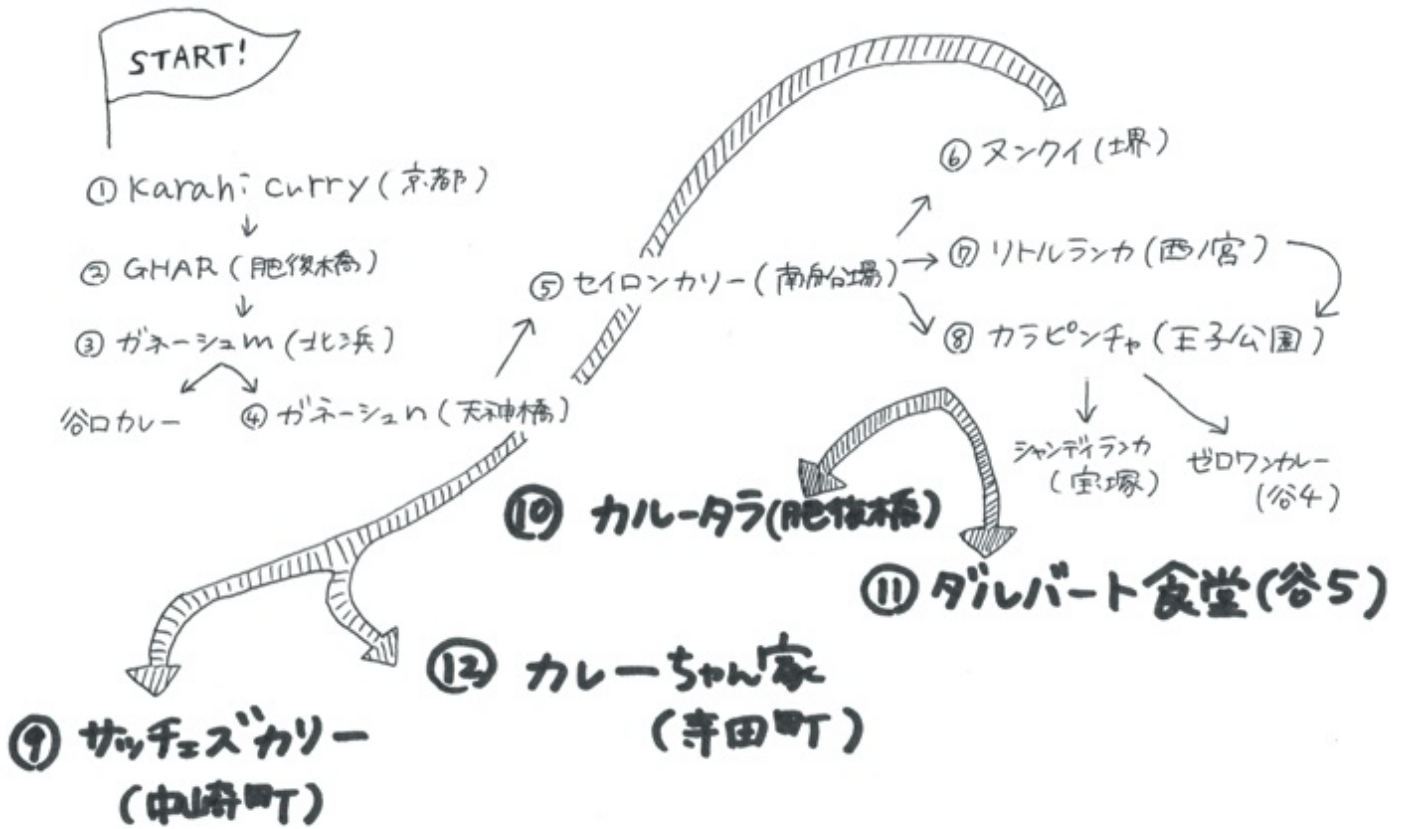




おいしいカレー屋さんが教えてくれるカレー屋さんはおいしいはず！
カレー屋さんを導かれカレー屋さんをめぐる旅の記録です。



カレ〜リレ〜の地図



あれそれカレー

第四回（カレー事情聴取おわる）

人生初出店となった4月22日のカレー事情聴取では、たくさんの方に食べて頂き、無事完売となりました！
 当日は持ち場からなかなか離れられず、出店されていたカレーも全種類食べることはできませんでしたが、同じフロアの出店者さんとカレーを交換し合い、カレーを通じて交流ができました。そして、一口にいえど、大事な言葉が抜けてました。一口にカレーといえどいろんなカレーがあること、「あれそれカレー」を再確認しました！
 カレーって懐の深い食べ物なあ...

何かしらのおも
 何かしらのスパイスで
 煮込む



何かしらの
 カレーが
 生まれるの
 です

いかにホントに...



skoshi hanashi
すこしはなし
—Summer—

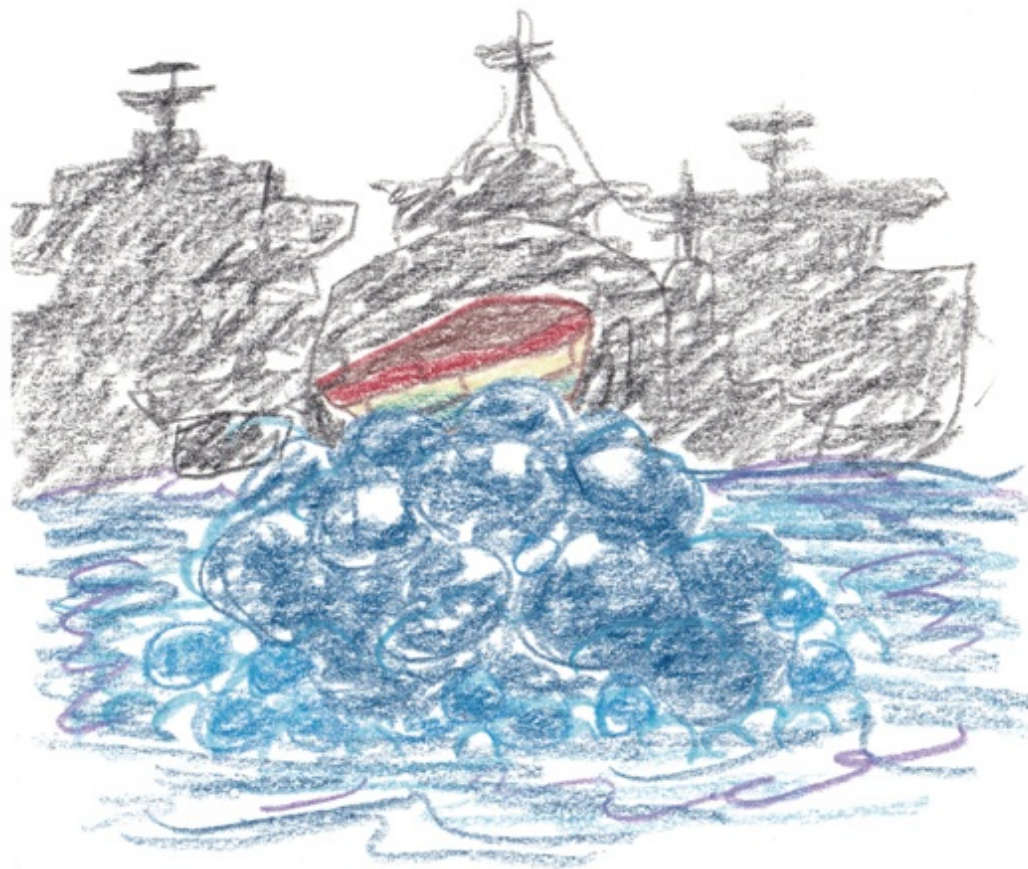
フネというと、舟、船、艦、槽と四つの漢字がある。舟は船より小さく、艦は船より強い。槽は乗り物としての機能はなく、浴槽などのフネの形を喻えたものだ。港に泊まっているフネは大抵船で、海軍基地があるような港では艦も見られる。フネにも色々あるが、俺が好きなのは船。その中でもコンテナ船は格別だ。船だけを見ると、ただべたと長い船体で客船のような華やかさも無いし、他人は何の面白みも無いと言うが、コンテナ船が見知らぬ外国の文字が書かれた色とりどりのコンテナを載せて、海から海へと渡る姿が何とも言えず好きなのだ。

俺は物心ついた時から、港にほど近い山のとっぺんに、パパと二人で暮らしていた。住んでいたのは戦時中に建てられた旧日本軍のコンクリート製の見張り台で、パパは『戦争が終わって誰もおらんようになって、もったいないで住んだ』と言っていた。見張り台の屋上からは、港に泊まるフネも、遠くのフネもよく見えた。俺はよく学校にも行かず一日中フネを眺めていた。パパはそのことで何度も学校に呼び出されたが、それでも俺に学校に行きなさいとは一度も言わなかった。好きなことに一生懸命になるのを他人が止めようとするのは、不自然なことだといつも俺を励ましてくれた。そんなパパがある日、布団に入る前にこんな話をした。



「なあ僕。港には色々なフネがごちやませに泊まっとるやろ。波に揺れて、ギイヨ、ギイヨ、鳴いとるやろ。あの中のフネにな、たまにフネのおばけが紛れとつてな、フネのふりして同じようにギイヨ、ギイヨ歌っとるんよ。あれはな、海から海へと渡っとる途中にダメになって沈んでしまったフネでな、そういうフネたちの魂が集まってフネのおばけになるの。ほんで世界中の港に現れて、昼間は歌をうたい、皆が寝静まれば山を登る。フネのおばけはもっともっと海を渡りたかったのに叶わなかったフネたちやろ。生きているうちには絶対登れんかった山に登って遊んどるんやな。港に泊まっとるフネに自慢しとるんかもしれん。そんな話を昔はみんな知っとつた。」

その話を聞いたあくる日から、俺は毎晩毎晩、夜更かしをして屋上でフネのおばけを待った。どんなに天気が悪くても、じっと息を殺して待ったが、いくら待っても来なかった。パパはそういうものは自然と出会うもので、わざわざ物見に行つてはいけないと言い、屋上に通じる扉を釘で固く打ちつけてしまった。俺はいよいよフネのおばけが見たくてたまらなくなった。駄目だと言われることほどかえって気になつて仕方がないのだ。俺は海に出て、フネのおばけを探しに行こうと決めた。適当な舟は持ってないし、買うお金もな



んな水分があつたのかと思うほどの涙が溢れ出た。するとその時、ボロ舟の周りに小さな泡が集まりだし、次第に大きな泡となって、海面ごとボロ舟を持ち上げた。驚いて起き上がると、海面から色々な形の黒いフネの影が立ち上がり、それは集まってひとつの大きなフネの影となった。長い間探し求めていたフネのおばけが、俺の目の前にやっと現れたのだ。フネのおばけはすーっと俺のほうへ来ると、『そうまでして見たかったのか?』と尋ねた。俺の長い旅はきつとこの海の上で終わるんだなと覚悟しながら、『そうだった。だけどたった今、俺はフネのおばけの為に死ぬのは嫌になった。』と答えた。するとフネのおばけは海面を揺らして、がっはっはと豪快に笑った。さっきまで凪いでいた海は大きく波打ち、俺は舟の外へ投げ出された。氷のように冷たい水は鼻や耳に流れ込み、腕や足は荒れ狂った波に今にも引きちぎられそうで、俺はあまりの痛みに気を失った。気が付いた時には、目の前には慣れ親しんだ故郷の海が広がり、山のほうを見ると見張り台が俺を見下ろしていた。フネのおばけが俺をここへ帰してくれたのだ。港でずっと俺の帰りを待っていたババは変わり果てた俺の姿を見て『よう遊んだねえ』とだけ言って笑った。フネを見ると、相変わらず波に揺られてギョ、ギョと鳴いていた。

フネのはなしあとがき

今回のおはなしは、二年前に三重県の神島へ一人旅に行ったときのことがもとになっています。小さな島なので当たり前ですが、辺り一面が海に囲まれ、盆地育ちの私には、見慣れない新鮮な風景でした。

見慣れないものに対面したとき、好奇心でわくわくする気持ちと、少しのびりつとした緊張感や恐怖感もあります。海はあんまりに規模が大きすぎるし、対岸もない。フネは大きいと生き物みただし、フネと海面がざぶざぶなっているところになにか良からぬものがいそう。そんな理由で私は好きだけどちょっと怖いのです。

そんな私の海やフネに対する、ちょっと怖いな、という気持ちがおはなしのおおげけとなり今回のおはなしができました。尊敬する水木しげるさんと夏の暑さの影響で、全体的におおげけ要素濃いめですね…ちなみにタモリさん、サカナくん(さん?)、磯田道史さんのことも尊敬しています。

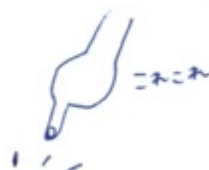




バックナンバーが、 webで読めるようになりました!

2016summerからスタートした日々(にちにち)。
この夏1周年を迎えまして、ブクログの「Puboo(パブー)」でバックナン
バーの掲載も始めております。
情報無発信型のフリーペーパーですが、最新号とあわせてお楽しみく
ださい!

[アクセス方法]



こちらのQRコードまたは、「パブー にちにち」で検索!

[日々設置店リスト]

—TOKYO—

・ONLY FREE PAPER ヒガコプレイス店

—OSAKA—

・アオツキ書房

・FOLK old book store

・cafe gallery タロイモ

—KYOTO—

・ホホホ座 浄土寺店/三条大橋店

・只本屋

・誠光社

・tomarigi

・六曜社珈琲店

・kara-S

—FUKUOKA—

・スピタルハコザキ内 FREHAKO!

—☆SPECIAL☆—

・くまもと森都心プラザ図書館

・福岡東図書館

・MUJI BOOKS 岡山ロッソ店

・ドコモショップ 宇都宮鶴田店

*「日々(にちにち)」設置店は予告なく変更となる場合もあります

end



2017 Summer号

イラスト&文：コダマ

mail : codama235@gmail.com

～日々を読んだ感想、又コダマに興味を
持って下さった方のご連絡をお待ちして
おります～